

令和4年度 大阪府環境審議会 第2回 環境・みどり活動促進部会 議事概要

日 時：令和4年9月2日（金）10時00分～12時00分

開催方法：WEB会議システムによる開催

出席者：増田委員（部会長）、花田委員、三輪委員、岡見委員

1 開 会

2 議事概要

議題1：大阪府環境保全活動補助事業の審査について

今年度第2期の募集期間中（令和4年6月8日～7月29日）に申請のあった4件について、事務局から申請内容等の説明及び部会委員からの質疑等があり、その内容を踏まえて、次の審査基準に基づき審査。

【審査基準】

- ① 府の環境保全・創造に寄与すると認められること。
- ② 府民の自主的な環境保全活動につながる波及効果や、環境・社会・経済の統合的向上への寄与が期待されるなど、成果が広く府民に還元されること。
- ③ 将来に向けた事業の継続や他事業への展開など、事業の発展性が認められること。
- ④ 経費の妥当性や計画の具体性があること、及び適切な感染拡大防止対策が講じられていること。
- ⑤ 過去5年度以内に3回以上補助した事業については、その事業が環境問題、課題解決に対して効果をあげていること。

各委員が採点した評価点の合計点数の平均点（少数点以下第1位を四捨五入）により事業の順位付けを行い、得点の高い事業から予算の範囲内で採択するとともに、評価点の下限値（評価点合計の平均点60点）を定め、その点数に満たないものは採択しないものとした。

審査の結果、上位3件は評価点の下限値以上であり、採択することが適当であると認めた。評価点が下限値に及ばなかった1件については不採択となった。なお、一部の事業について、環境啓発効果を高める観点、及び感染症予防の観点から適切な対応を検討すべき旨の附帯意見を付することが適当と判断した。

【補助金採択・交付事業一覧】

団体名	事業名	事業の概要
「Three Pieces Market」実行委員会	Three Pieces Market	環境や衣食住をテーマにしたオーガニックマルシェを毎月開催する。
NPO 法人 VVV-Craft	身近なゴミを宝物にするアップサイクル・ワークショップ	家庭で出た身近なごみをアップサイクルするワークショップを実施し、プラスチックごみ問題についての啓発を行う。
NPO 法人いずみ太鼓	まちごみゼロウォーク -GPS アートで地球にらくがき-	GPS アートを作りながらごみ拾いをするウォーキングイベントを実施し、ポイ捨てによる海洋ごみ問題について啓発する。

議題 2：大阪府環境教育等行動計画の見直しに係る検討について

令和 4 年 6 月 8 日の大阪府環境審議会への諮問内容、大阪における環境教育等の状況及び次回の部会開催予定について資料に基づき事務局から説明し、今後、環境教育を推進するにあたっての課題について各委員から意見を伺った。委員からの主な意見は以下のとおり。

(増田部会長)

- ・ 現行計画では指標になるものが設定されていないが、新たな計画では指標の設定も検討する必要があるのではないか。
- ・ 見直しにあたっては、現行計画の評価が必要。今までの事業の振り返り・検証することで、新たな視点がみえてくる。
- ・ これまで定年後のリタイア層や主婦層が地域での環境活動の担い手として活躍してきたが、今後は大学生や高校生が地域の活動リーダーとなり、活動が継続されることが大事。
- ・ 地域での活動では、中間支援団体の存在も重要。

(花田委員)

- ・ これまでの教育は知識を教えるというものであったが、今後は、社会全体の変革に向けて、環境課題等を理解し、一人一人の行動を変えていくことが求められている。
- ・ 行動変容が求められていることから、指標についても、「知っている」人の割合ではなく、「行動している」人の割合をみていく必要があるのではないか。
- ・ 以前、高校生を対象にしたワークショップを実施したことがあるが、色々な意見が出て良かった。こうした高校生の意見を聞く機会や活動の場を作るのも大事なこと。

(三輪委員)

- ・ 近年、情報化が進み、若い人たちは、スマートフォン1つで学習・行動していくようになっており、学校教育における“学習”とは違った形の環境学習・活動が広がってきている。
- ・ これまでの環境活動・市民団体活動は高齢化が進み、縮小傾向にある。今後の担い手として、若者・大学生に参加を期待。
- ・ ボランティアは若い世代が参加するようになってきているが、1日の経験だけで終わることも多く、組織行動をしようというところまでは至っていない。継続的・組織的な取組を

促していくことも必要。

(岡見委員)

- ・ 学校での環境教育は、中学や高校では小学校と比べ優先順位が低い。しかし、現場で見ていると、高校生や中学生のボランティア参加が増えており、ボランティア活動を通じて社会活動に関わりたいと思う若者が増えている。
- ・ 若者のボランティア参加で大切なのは、若者に行政のお手伝いをさせるのではなく、若者の発想の手伝い・支援を行政が行うこと。
- ・ 中間支援団体と行政がパートナーシップを取り、一緒にやっていけばいいことが増える。

3 閉 会

以 上